

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム
(平成 19 年度教育課題研修報告)

報 告 書

プログラム名	豊かな心を育む道徳授業力向上プロジェクト －養成・研修一体型研修の試み－
プログラムの特徴	児童・生徒の豊かな心を育む教員の力量を向上させるため、道徳の授業力向上をテーマとした養成・研修一体型研修プログラムを開発する。受動的な研修から能動的な研修の要素を取り入れたことが大きな特徴である。

平成 20 年 3 月

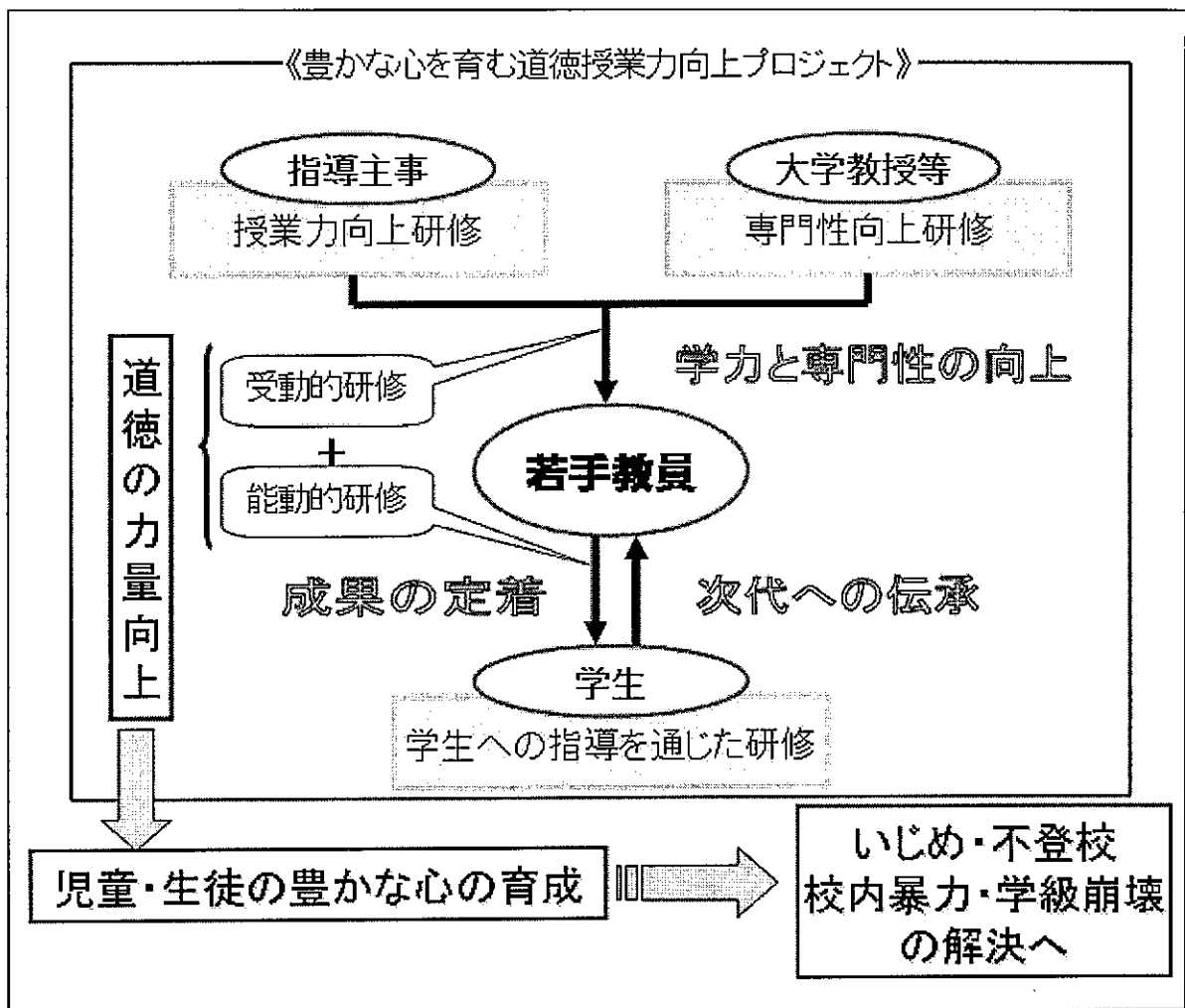
宮城教育大学

仙台市教育委員会

I 開発の目的・方法・組織

1. 開発目的

近年、いじめや不登校、校内暴力や学級崩壊、児童生徒の心の教育は教育現場における最重要課題の一つであり、この面での教員の資質向上もまた喫緊の課題である。本学と仙台市教育委員会は、道徳の授業力の向上をテーマとした養成・研修一体型循環研修プログラムを開発し、児童・生徒の豊かな心を育む教員の力量を向上させるための研修のモデルカリキュラムの開発を行うことを目的とし、本事業を実施した。対象は5年研、10年研対象の小・中学校の若手教員である。



2. 開発の方法

大学の持つ専門性と養成機能、教育委員会がこれまで培ってきた

授業力向上に関する研修ノウハウを融合させ、養成段階の学生と教員の道徳指導を併せて実施することで、相乗効果を生み出すことへの試みである。

具体的には、授業力向上のための授業研究等を教育委員会が担い「授業力向上に関する研修」、理論的基礎や意識改革の部分を本学が担い「専門性向上に関する研修」、その成果を教育現場での実践のみならず、指導的立場に立つことで定着化させる「学生への指導を通じた研修」を体系化させるものである。

3. 開発組織

(1) プロジェクト委員会

全体の統括と評価を担うこの組織のメンバーは下記のとおりである。

宮城教育大学副学長	阿部 芳吉
仙台市教育センター所長	吉田 利弘
宮城教育大学教授	山下 直治

(2) プロジェクト実施委員会

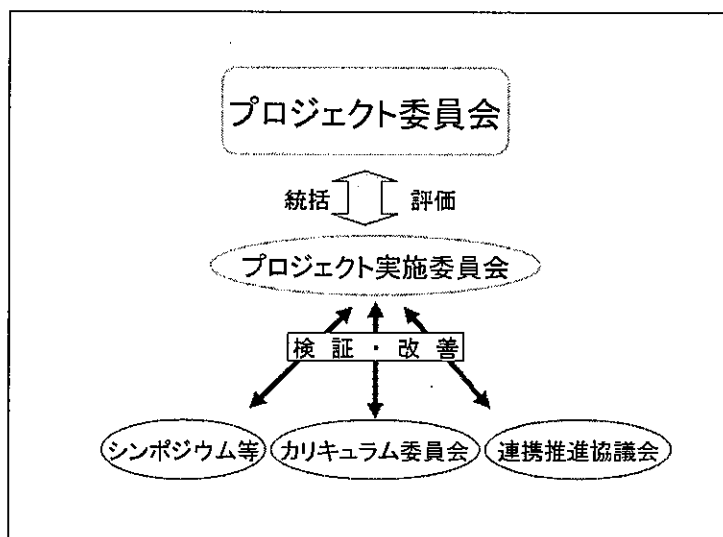
プロジェクトの実施に関わる具体的検討及び実施を行うものとして下記のとおり組織した。

宮城教育大学	教授	山下 直治
仙台市教育センター	指導主事	佐々木成行
仙台市教育センター	指導主事	佐藤 郷美
仙台市教育センター	指導主事	本木 一昭
宮城教育大学附属小学校	教諭	佐々木博昭
宮城教育大学附属小学校	教諭	荒明 聖
宮城教育大学	就職・連携主幹	松本 仁一

(3) 組織の目的

プロジェクト委員会と実施委員会と分離することで、システムや連携の在り方について実施とは違った客観的立場から

常に検証することを図った。詳しくは図のとおりである。



Ⅱ 開発の実際とその成果

本プロジェクトは、研究協力員として 17 名の若手教員に対して年間を通じた研修を実施したものである。このような充実した集中的な研修により、今後、他の教員への大きな波及効果が期待できると考えている。

1. 学生指導研修

(1) 研修の背景やねらい

道徳の授業について初めて学ぶ学部 3 年次生 60 名を小グループに分け、少人数演習形式の授業補助者（グループ講師）として資料分析、発問検討、指導案作成、模擬授業までの指導にあたり、授業終了後に行われる教育実習においても参観を行うほか、事後検討会も実施する。

学生の指導に参画することにより、教員自身の実践を振り返るとともに、知識・技能の再構築を図ることをねらいとする。

(2) 対象、人数、期間、会場、講師

対象：研究協力員

人数：17 名

期間：平成 19 年 5 月 14 日～19 年 7 月 2 日まで

各対象者 3 回以上の授業補助を実施

会場：宮城教育大学

講師：実施委員指導主事

(3) 研修項目の配置の考え方

1 週間に 1 コマ行われる授業において学生を指導することを研修としているため、現職教員が全て出席することが不可能なことから、各教員が 2 コマずつ交代で指導していくことになる。学生は、7 月段階で指導案を作成し模擬授業を実施することを目標としていることから、それに併せた進行が必要となる。

ただし、それぞれのコマの中での研修項目は、事前ポイントの説明、グループ演習時の机間指導・助言、アンケートからの評価である。

(4) 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数

グループ講師の研修は以下の通りの項目となり、それぞれ実施委員の指導主事の指導を受けるものである。

	研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用機材、進め方等
授業前	事前指導	20 分	演習指導への共通理解	演習の進め方・役割の確認
授業時間内	本日のポイント・説明等	5 分	着眼点の明示	全体に対する説明
	グループ演習（机間指導）	50 分	教材や発問指導課程への指導・助言	各グループ間を回り、それぞれの疑問・質問に対応する
	グループ発表	15 分	評価	
	まとめ（指導・助言）	10 分	指導・助言	それぞれの発表を受けて、状況に応じた指導・助言を行う

授 業 時 間 内	本日の課題、提出物確認	10分		学生にアンケートを書かせる上での課題の提示、提出の確認
	学生評価			アンケートから学生の評価
授 業 後	反省及び振り返り	20分		本日の反省及び指導等の振り返り

(5) 実施上の留意点

グループ講師は交代制で学生の指導にあたることから、指導の一貫性を保つため、各教員の日程調整及び事前の打ち合わせを綿密に行うことに留意した。

(6) 研修の評価方法、評価結果

各時間ごとに学生に発表させるとともに学生にアンケートを取り、それを基に学生の評価を行う一方、学生からも評価されることになり、教員自身の指導内容についての振り返りが可能となった。また、指導主事も授業前と授業後の時間を利用して教員に対し、教材や学生の指導法に関する指導も行った。

(7) 課題

次の担当教員へ、授業の進捗や概要を伝えることなり、個人情報の扱いに対する配慮との兼ね合いを検討するべきである。

2. 専門性向上研修

(1) 意識啓発研修

①研修の背景やねらい

実践経験もある程度積んでいる現職教員ではあるが、改めて道徳教育の基礎基本を振り返り再認識させることを狙った。

②対象、人数、期間、会場、講師

対象：研究協力員

人数：17名

期間：平成19年4月11日 1日間

会場：宮城教育大学

講師：関西学院大学教授 横山利弘氏

(元文部科学省教科調査官)

③各研修項目の配置の考え方

前半を道徳とは何か及び道徳の時間の果たす役割等の基礎基本について、後半を具体的な授業の展開方法等の授業作りについて講義を行った。

道徳の時間の意義について改めて考えることで、今後対応する学生への指導内容・方法を具体化させる。

④各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用機材、進め方

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用機材、進め方等
道徳の基礎 基本	1.5時間	基本の 再習得	・道徳の時間の意義について ・講義形式
道徳の授業 作り	1.5時間		・道徳の授業力向上のための具体的方策 ・講義形式

⑤実施上の留意事項

特になし

(2) 道徳教育の現状と課題についての研修

a. 道徳講演会

①研修の背景やねらい

元文部科学省教科調査官を講師に迎え、道徳教育の現状と課題、全国的な状況や先進的事例について研修する。

②対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：研究協力員、仙台市内現職教員、仙台市教育センター職員、
宮城教育大学学生、会場校教員

人数：96名

期間：平成19年9月6日 1日間

会場：宮城教育大学

講師：関西学院大学教授 横山利弘氏

③各研修項目の配置と考え方

先進的取り組みを学び今後の授業作りに活かす。

④各研修項目の内容、実施形態（講義、演習、協議等）、時間数、使用機材、進め方

研修項目	時間	目的	内容・形態・使用機材・進め方等
講演・質疑応答	90分	課題検討	・講義形式 ・具体的課題の検討

④実施上の留意事項

特になし

(3) 授業改善に関する研修

①研修の背景やねらい

資料分析や発問の仕方など道徳の授業作りのポイント等、授業を
実践するうえでの具体的課題・方策を考えることを目的としている。

②対象、人数、期間、会場、日程、講師

a. 道徳教育研究会

対象：研究協力員等

人数：7名

期間：平成19年11月3日 1日間

会場：大阪府立女性総合センター

講師：関西学院大学教授 横山利弘氏

b. 道徳授業研究会（中学校）

対象：研究協力員、仙台市内現職教員、仙台市教育センター職員、

宮城教育大学学生、会場校教員

人数：32名

期間：平成19年11月16日 1日間

会場：仙台市立三条中学校

講師：大阪教育大学教授 藤永芳純

c. 道徳授業研究会（小学校）

対象：研究協力員、仙台市内現職教員、仙台市教育センター職員、
宮城教育大学学生、会場校教員

人数：36人

期間：平成20年2月26日 1日間

会場：仙台市立八幡小学校

講師：畿央大学准教授 島 恒生氏

③各研修項目の配置と考え方

講師の講演の中で、資料分析や発問の仕方など、授業作りの中の具体的課題を抽出し分析的に掘り下げ、今後の実践に活かし、授業力向上を図る。

④各研修項目の内容、実施形態（講義、演習、協議等）、時間数、使用機材、進め方

a. 道徳教育研究会

研修項目	時間	目的	内容・形態・使用機材・進め方等
指導案検討	180分	課題検討	・読み物資料を使った指導案検討 ・演習形式

b. 道徳授業研究会（中学校）

研修項目	時間	目的	内容・形態・使用機材・進め方等
講演・質疑応答	90分	課題検討	・講義形式 ・具体的課題の検討

c. 道徳授業研究会（小学校）

研修項目	時間	目的	内容・形態・使用機材・進め方等
講演・質疑応答	90分	課題検討	・演題「楽しい道徳の授業をしよう」 ・講義形式 ・具体的課題の検討

3. 授業力向上研修

(1) 基礎研修

①研修の背景やねらい

この研修の趣旨を明確にし、このプロジェクトのねらいについて共有することを目的としている。さらに、学生指導にあたる前に、教材研究、指導案検討、模擬授業の手法についての具体的指導を教育委員会指導主事が実施する。

②対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：研究協力員

人数：17名

期間：平成19年5月8日 1日間

会場：仙台市教育センター

講師：宮城教育大学教授 山下 直治

仙台市教育センター指導主事 佐藤 郷美

③各研修項目の配置と考え方

本学及び市教委から、このプロジェクトについての概要等を説明し、研究概要を明確にする。実際の手法、内容については指導主事が具体的に指導する。

④各研修項目の内容、実施形態（講義、演習、協議等）、時間数、使用機材、進め方

研修項目	時間	目的	内容・形態・使用機材・進め方等
研究概要の説明	20分	目的意	・講義形式

具体的研究の進め方	40分	識・達成目標の共有	・具体的課題の検討
-----------	-----	-----------	-----------

④実施上の留意事項

特になし

(2) 授業研究

①研修の背景やねらい

学生指導を踏まえ、一層の資質向上を図るため、各自指導案等を持ち寄り授業研究を実施する。具体的には、資料分析や発問の仕方など道徳の授業作りのポイントを学び、今後の実践に活かすことを目標とした。

②対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：研究協力員、会場校教員

人数：32名

期間：平成19年11月16日 1日間

会場：仙台市立三条中学校

講師：仙台市教育センター指導主事 佐藤郷美

③各研修項目の配置と考え方

授業研究会を実施することで、各教員それぞれの視点を合わせた多面的な課題への捉え方に繋がるとともに、具体的な問題について深く検討することができる。

④各研修項目の内容、実施形態（講義、演習、協議等）、時間数、使用機材、進め方

研修項目	時間	目的	内容・形態・使用機材・進め方等
道徳研究会	120分	課題検討	<ul style="list-style-type: none"> ・教材、指導案を持ち寄り、それを基に課題の洗い出し ・具体的課題の検討

(3) 授業研究及び授業分析

①研修の背景やねらい

公開授業を通して、学校現場が連携し、現職教員及び教員養成大学学生の資質向上を図ることをねらいとし、現職校長、教育センター指導主事を講師とすることから、学級経営等を含めた現場が抱える問題についての共通認識、共通理解を図る。

また、成果を広めるため公開で実施し、現職教員のほか教員採用試験合格学生等を対象として実施することで、養成と研修の融合を図ることとする。

②対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：研究協力員、仙台市内現職教員、仙台市教育センター職員、
宮城教育大学学生、会場校教員

人数：36名

期間：平成20年2月26日 1日間

会場：仙台市立八幡小学校

講師：仙台市立八幡小学校長 佐藤建一氏
仙台市教育センター指導主事 佐藤郷美

③各研修項目の配置と考え方

まず、道徳の時間について事前指導を行い、その後公開授業、校長による講演を実施した

センター指導主事による事前指導では、各学校の道徳授業の現状と課題等をふまえた当研修の視点の置き方を説明することで、研修の意義の共有を図った。次に公開授業により具体的課題の洗い出しを行うとともに、校長による講話では、道徳授業と学級経営の関連、担任としてクラス作りの中で道徳授業の意味を考えさせた。

④各研修項目の内容、実施形態（講義、演習、協議等）、時間数、使用機材、進め方

研修項目	時間	目的	内容・形態・使用機材・進め方等
事前指導	60分	意義の共有	・講義形式
道徳公開授業	45分	課題の提起	・公開授業
校長講話	45分	クラス作りと 道徳との関連 の把握	・講義形式

Ⅲ 大学・教育委員会連携による研修についての考察

1. 連携を推進・維持するための要点

本取り組みについては、宮城教育大学、仙台市教育委員会の連携により実施した。仙台市教育委員とは、平成13年度の「連携協力に関する覚書」取り交わしを強固な連携の土台として様々な事業を実施し実績を挙げているが、今回の取り組みについても大学のカリキュラムに着目して先行的な取り組みをしつつ協議・改善してきたところである。

本学での連携体制は、教育委員会からの求めに応じた教員個別の協力・参加といった形ではなく、大学全体で連携を推進させる組織を既に整えていること、そのため各人の意識・意欲が備わっていることが特徴として挙げられる。そのため、教育委員会の利益を図るため、もしくは教育委員会主導の一方的な協力体制ではなく、本学利益も押し出した事業の提案・開発、それにより双方の利益の一致を図ることができたと考えている。

このモデルカリキュラム開発にあたって、教育委員会との連携協力体制については、養成と研修が一体となった教員研修のモデルカリキュラムとしての開発を目指したものであり、一方通行の協力体制ではなく、いわば双方向型の連携協力体制を構築することが出来たと考えている。

モデルカリキュラム実施だけでなく、大学側、教育委員会側双方で組織的なバックアップ体制も含め、連携・協力の在り方についてもモデルを示せるものとなった。

2. 連携により得られる利点

大学にとっては、現場のニーズと学生に提供するサービスの一致を図ることができ、教育委員会にとっては、一方的に受ける講義形式の受動的研修だけでなく、より発展性のある能動的研修の機会となるだけで

なく、研修の人件費削減等もつながるといった利点がある。

学生をスタートとして学生と若手教員間、若手教員と指導主事等との間での資質向上サイクルの構築を目指したこのプロジェクトは、養成の手薄さが道徳の指導を苦手とする教員を生むというマイナスの循環から、負の連鎖を断ち切りプラスの循環への転換を図ることができるものであると考えている。

3. 今後の課題等

このモデルカリキュラムの実施については、今回のものだけを目的とするのではなく、継続性も視野に入れて実施していくこととしており、今回構築した連携体制は今後も継続させることで合意している。

また、今回の連携は学生の教育にも関わらせるという点で、大学と現場の距離的な面から仙台市教育委員会との連携としたが、成果の還元については、仙台市教育委員会に閉じることなく、同じく連携を図っている宮城県教育委員会とも連携しながら還元していくことを目指している。

【問い合わせ】

国立大学法人宮城教育大学

就職・連携課

〒980-0845

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL 022-214-3329